

◇検体検査◇

検体検査は、患者さんから得られた検査材料について行う検査です。検査材料とは、尿や便など患者さんご自身が排泄するものと、血液・胸水・腹水などの直接患者さんの体内から取り出されたものとに分けられます。

医師からの指示による、病気の診断や治療に欠かせない検査結果を正確かつ迅速に報告するよう取り組んでいます。

【生化学検査】

血液や尿などに、体調へ影響を及ぼす物質がどれくらい含まれているのかを測定します。肝機能、心機能、腎機能、脂質代謝、電解質、血液ガス検査などを実施しています。

【血液検査】

貧血による赤血球の減少や、感染症や炎症による白血球の増加を測定します。さらに、白血球の種類を詳しく分類し形態を調べることは、血液疾患等の診断につながります。血液凝固検査は、出血傾向（止血しにくい状態）や血栓症（脳梗塞、エコノミー症候群等）の予防や治療のための検査です。

【一般検査】

尿や便、髄液・胸水・腹水の検査を行っています。

尿検査は、尿中に蛋白や糖、血液が混じっていないかを調べます。また、細菌の有無や悪性細胞がないかを詳しく顕微鏡で観察する事により、尿路感染症や腎疾患等を見つけることができます。便潜血検査は消化管出血の有無を調べ、大腸がんや大腸の出血性病変の発見に有用です。その他、インフルエンザやノロウイルスなどの迅速検査も実施しています。

【免疫血清検査】

ウイルス性肝炎（B型肝炎、C型肝炎）、HIV、梅毒、各種腫瘍マーカー（CEA、PSAなど）、甲状腺ホルモンなどの検査を行っています。